

## 松本地区社保協 2022 年度総会開催(5/28) 昨年度の重要な成果・到達を踏まえ、社会保障改善の要求を高く掲げ、一年間奮闘しよう!



↑ 講演する佐野院長

松本地区社保協は、5月28日(土)午後2022年度総会を開催しました。総会には加盟団体から20名ほど参加。総会には、松本協立病院の佐野達夫院長による記念講演があり、そのあと昨年の活動報告、今後の活動方針、昨年度決算、本年度予算、役員の一部交替など年次総会を行いました。

### 記念講演「新型コロナ感染症治療で奮闘する松本地域の医療連携の実際」

講演で佐野院長は、「①COVID-19 感染症の概要②松本地域での医療連携の実際③これからの医療に必要なこと」について論じました。

まず、佐野院長は、新型コロナ感染症の治療にあたって、医療・介護現場で実際に起こっていることは、「ヒト・モノ・カネの不足」であったこと。松本地域での医療連携では、感染症指定病院である松本市立病院を中心に信大病院、国立まつもと医療センター、安曇野赤十字病院などの国立・公的病院と相沢病院、松本協立病院、丸の内病院などの民間病院が公立・民間の違いを超えて「松本モデル」と

呼ばれたように、うまく連携できたのは、「松本広域圏救急・災害医療協議会」などの場で、日頃から連携してきた事が大きかったのではないかと指摘しました。最後に「これからの医療に必要なものとして、「コロナ禍で広がった国民の格差と苦難」「この間の全国の保健所が半減されてきた」「感染症病床の削減」「低医療費政策による病院経営の悪化」「患者負担の増大」などを指摘し、新自由主義政治による社会保障の変質・解体路線の転換が必要と強調しました。

### 年次総会：歴史的な成果があった昨年度の活動の到達を踏まえ、更なる前進をめざそう!

講演のあと年次総会を開催。久保田会長のあいさつ、湯浅事務局長が昨年の活動報告、今年の活動方針、会計決算・予算案、規約の一部改正などを提案。報告では、松本市で31年ぶりに国保税の引下げ、安曇野市、松本市、塩尻市で子どもの医療費助成対象の拡大など歴史的な成果があったと報告。討論では、塩尻の活動報告、生健会から発言などあり、参加者全員の賛同を議案が可決されました。続いて役

員の一部交替案が提案され、了承されました。今まで5年間事務局長をしていた湯浅健夫氏が副会長に就任し、新たな事務局長に塩尻協立病院の塩原秀治氏が選出されました。新事務局長に選出された塩原氏から決意のあいさつ(右上写真)がありました。



#### 昨年度の活動記録(写真)

- ① 昨年5月お薬手帳中止・回収を求める要請
- ②、③ 昨年12月実施の自治体キャラバン
- ④ 本年4月実施の大運動実行委員会定例宣伝
- ⑤ 全国保団連発行の「知っとくパンフ」(事務局に在庫有り)

